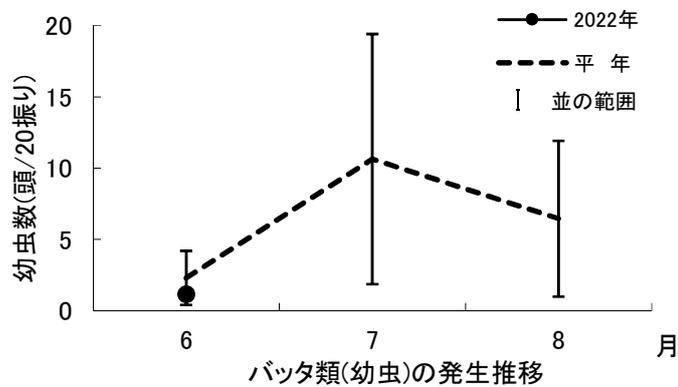


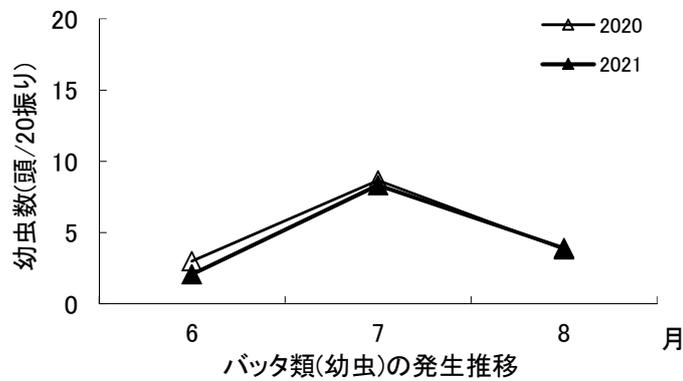
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① バッタ類		 タイワンハネナガイナゴ
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
		7 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



- ・発生ほ場率：58.3% (平年値：59.1%)
- ・発生種：台湾ハネナガイナゴ、トノサマバッタ

防除のポイント

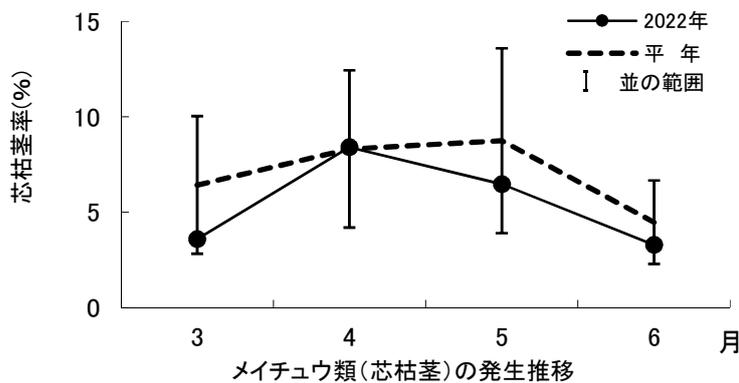
- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。



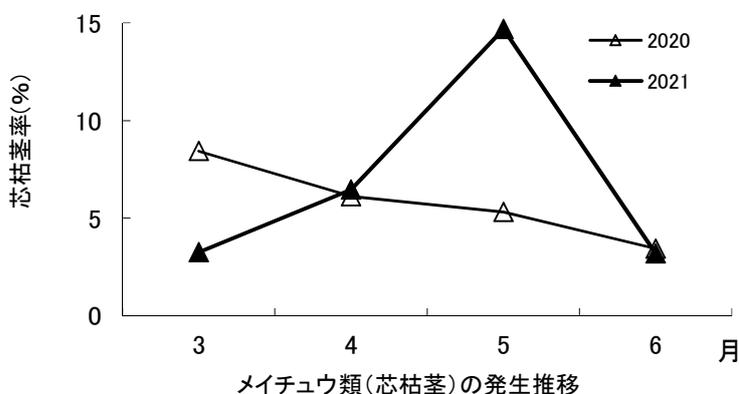
作物	さとうきび	地域	八重山群島	
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)			並
予報	6 月からの増減傾向			-
	7 月の発生量 (平年比)	-		
予報の根拠				

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：87.5%（平年値：88.0%）
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、93.3%（14/15頭）がカンシャシンクイハマキ、6.7%（1/15頭）がイネヨトウであった。

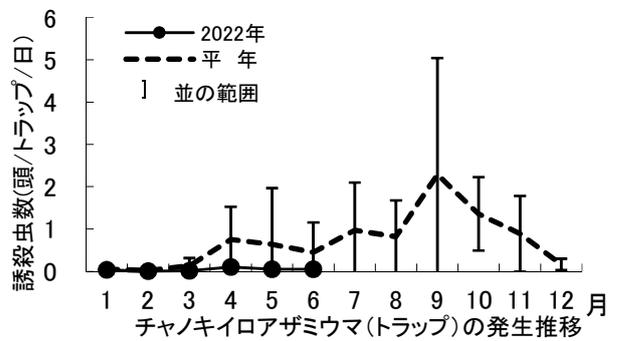
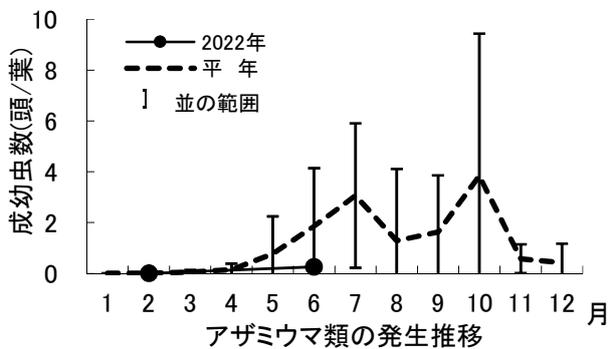
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

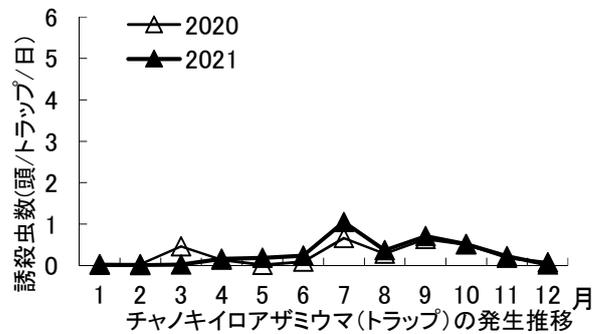
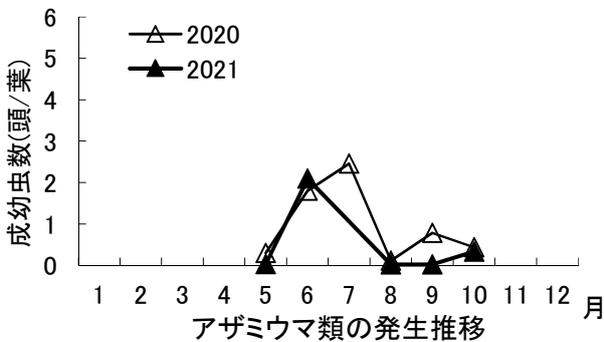
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生施設率：20.0% (平年値：43.2%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

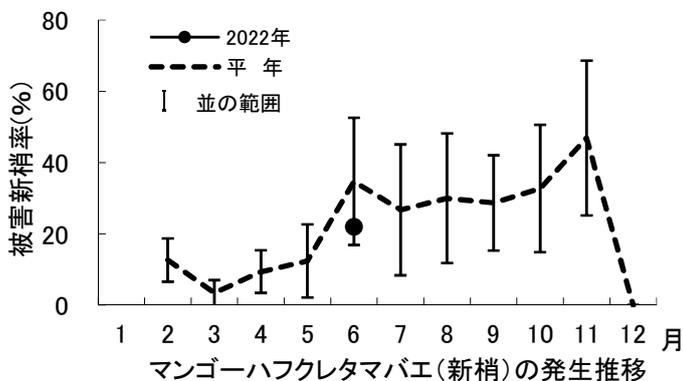


ナゲエコミカンソウ

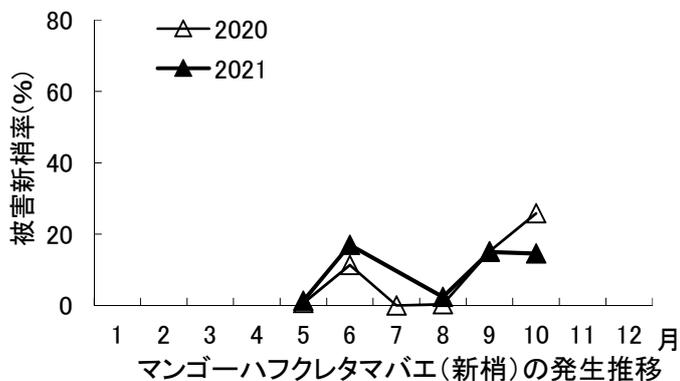
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↓	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生施設率：80.0% (平年値：65.2%)

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

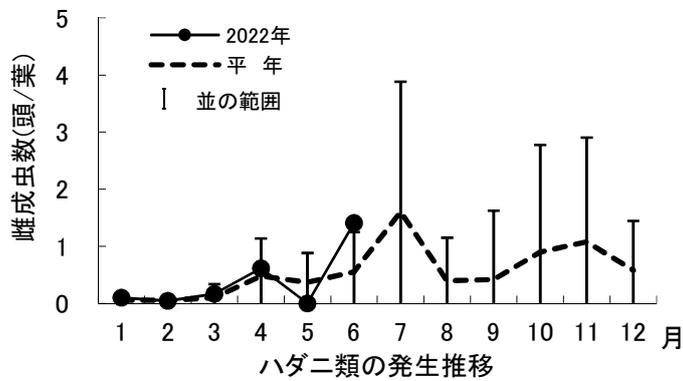


被害のようす

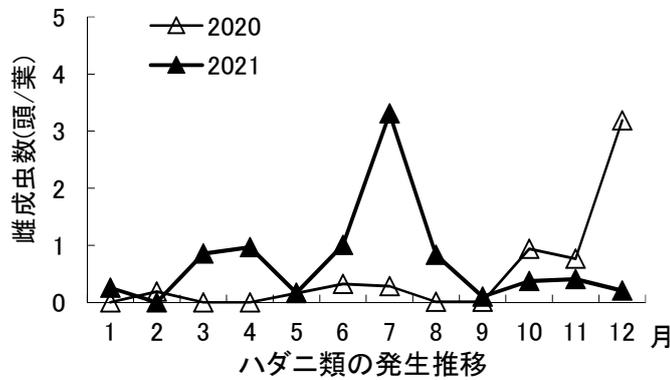
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・ 発生施設率 : 40.0% (平年値 : 40.0%)

防除のポイント

- ・ 収穫終了後の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

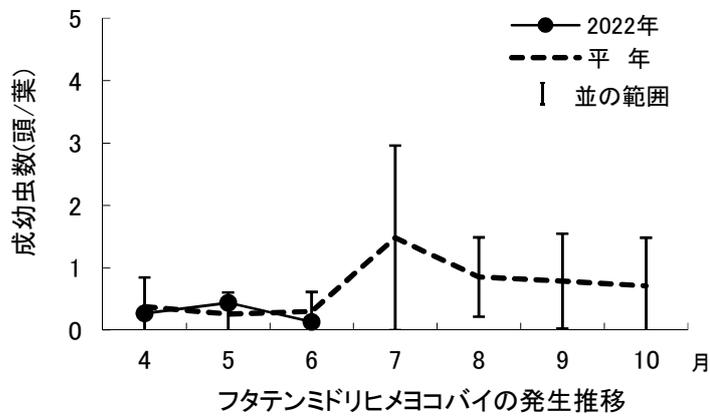


ハダニの寄生による葉のかすれ症

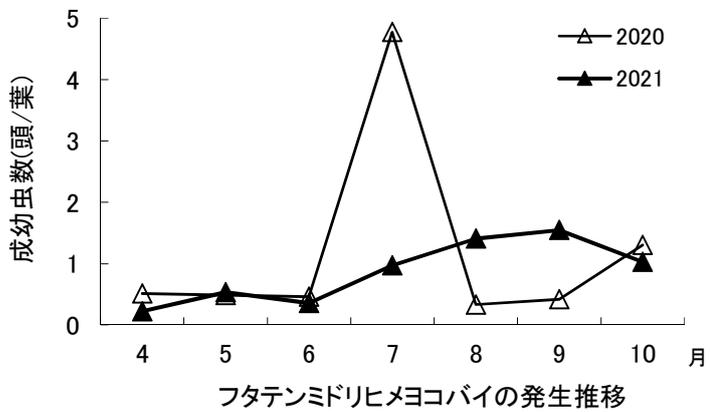
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
		7 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率：80% (平年値：56.9%)

防除のポイント

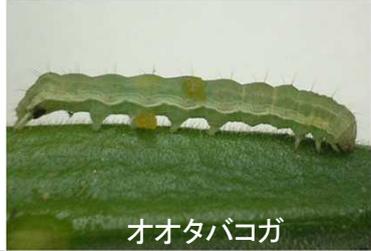
- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



幼虫

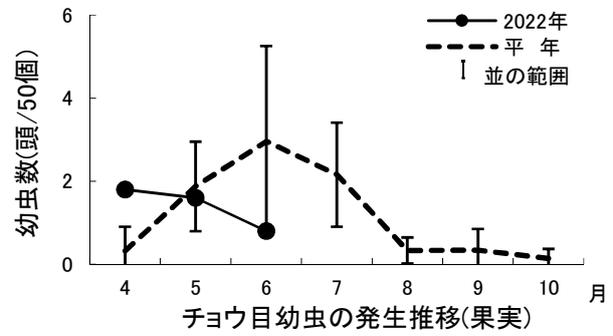
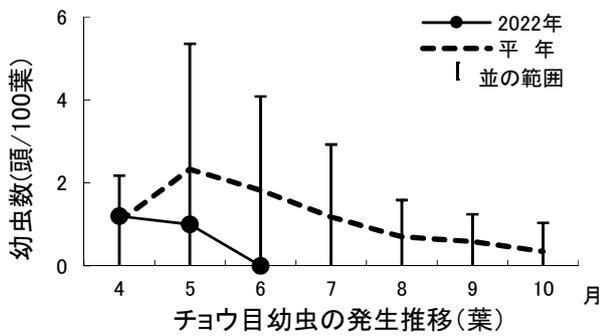


被害葉

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		 <p>オオタバコガ</p>
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↘	
		7 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移



発生ほ場率：葉 0% (平年値：32.8%)、果実 20.0% (平年値：56.0%)

発生種：オオタバコガ

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・老齢幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫による食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

